

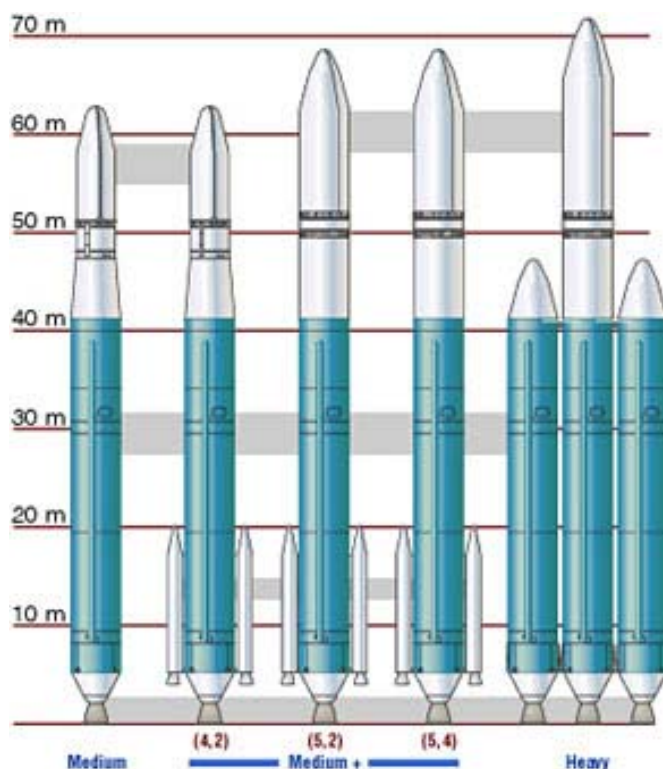
World News

ロケット関連ニュース

1. Boeing社は、GOES-N 気象衛星の Delta で6月23日-25日の間に打上げる事を発表

Boeing社は米国海洋大気庁(NOAA)及びNASAの3機の次世代気象衛星(GOES-N)の最初の衛星を6月23日-25日の間にDeltaロケットで打上げると発表した。打上げはフロリダ州ケープカナベラル空軍基地のOad37Bから夕方早い時間に打上げを予定している。現在同社のデルタIV打上げロケットへの結合を待っているBoeing製のGOES-N衛星は、より正確な予報、および厳しい嵐および他の天候現象の追跡を行い、国民により早く、およびより精密な警告を行う事が期待されている。合衆国沿岸警備隊の収集する外海環境データ、NOAA及びNASAの科学者が収集及び解析するリアルタイム環境データを支援する為に、GOES-N衛星からのマルチミッション天候及び地球観測データは今までに製造された衛星で最も精度の良いものとなる。GOES-Nは、BoeingデルタIVロケットで上げられる最初のNASA衛星である。この打上げにおいて利用されたデルタIV Medium+は、4メートルペイロードフェアリングで2段CFRPモータを搭載している。

- Boeing 2005.5.4 プレスリリース 記事 -



Delta シリーズ

2. Sea Launch社はSpaceway衛星の軌道投入に成功

Sea Launch社は4月26日DIRECTV社の最も重い商用衛星のSpaceway F1衛星を打上げ衛星を軌道に投入する事に成功したと発表した。衛星の初期チェックアウトでは順調であるとの事である。Sea Launch Zenit-3SLロケットは12時31分30秒PDT(07時31分30秒のグリニッチ標準時)に、西経154度に置かれたオデッセイ打上げプラットフォームから発射された。全ての機能は打ち上げ中、正常に働いた。Block DM-SL上段ステージは、6080kg(13376lb)のSpaceway衛星を西経102.8度の最終の軌道ポジションへの静止トランスファー軌道へ投入した。南アフリカの地上管制局は、離昇の1時間後に衛星からの最初のシグナルを取得しました。



Zenit-3SL Sea launch 社提供

Boeing702 モデル衛星は、寿命 12 年で EI Segundo、カリフォルニアの Boeing の衛星開発センターで製造された。

衛星はマーケット状況によりシームレスにサービスする為にサービス範囲を可変可能なアンテナを搭載している。

- Sea launch 2005.4.26 プレリリース記事 -

衛星関連ニュース

1. ロッキードマーティン社は、B-SAT 社から BSAT-3a 製造契約を受注

米国ロッキードマーティン社は 4 月 27 日、B-SAT 社から同社の次世代放送衛星「BSAT-3a の衛星製造基本契約」を受注した事を発表した。BSAT-3a 衛星は発生電力 1.8-kW の衛星で 2007 年第 2 四半期 (6 月 30 日) に B-SAT 社に納入を計画されている。同

衛星は BS アナログ放送と BS デジタル放送の両方に対応するハイブリッド型で、07 年に設計寿命を迎える放送衛星「BSAT-1a」の後継機として運用する。衛星は予備を含めて 14 本の 130W Ku バンドの TWTA を搭載し、其内の 8 本で運用される。寿命は 13 年である。衛星バスはロッキードマーチン社の A2100 シリーズの中で一番小型の A2100A で製造される。調達額は 100 億円程度とみられる。正式契約は 5 月中旬を予定している。打上げロケットはアリアン 5 である。



A2100 衛星 LMMCS 社提供

-LMCSS 社 2005.4.27 プレリリース記事-

2. EADS Astrium 社は INMARSAT-4 F1 衛星の軌道上試験が完了した事を発表した。

Inmarsat-4 F1 衛星は、2005 年 3 月 11 日の打上げに続けて行なわれてきた軌道上試験が 5 月 3 日に完了した事を発表した。初期軌道上試験は計画通り進行し、全ての衛星機能は十分な性能を有している事が確認された。衛星軌道上試験は、東経 8 度の試験軌道で行なわれ、今後 3 週間をかけて東経 64 度の運用軌道に移される。この衛星は、EADS Astrium 社が Inmarsat に対し製造した 3 機の衛星の最初の衛星で、Inmarsat 社

の既存のサービスの継承とやがて始める広帯域グローバルエリアネットワーク (BGAN) サービスを提供する。BGAN は移動体ユーザに対し音声通信サービス及び高速なデータ通信接続のサービスを行なう。グラウンドセグメントを含む軌道間接続試験が、現在 Inmarsat により実行されている。



Inmarsat-4 F1 衛星 EADA Astrium 社提供

2005 年 3 月 11 日にスーパーシンクロナス遷移軌道に打上げられ、続いて I-4 F1 衛星の運用をはじめた。衛星は、打上げのちょうど 33 時間後に最初の食を経て、3 月 22 日に静止軌道に到達した。衛星は 45m の 2 枚の太陽電池パネルを展開すると共に 80 平方メートルアンテナ反射板を展開、太陽帆走モードの姿勢を確保、プラズマ推進システムを使いはじめた。3 月終わりにペイロードにスイッチが入れられた後に、最初の高速通信回線がイタリア Fucino 局と衛星間のアクセスステーションが首尾よく開設され、搭載デジタル信号処理システムと全てのアクティブハードウェアが運用可能である事が確認された。確認試験にはアンテナパターン測定、パッシブインターモジュレーション、主要な通信機能の確認が行なわれ、すべてのテストによりこれまでに主要性能パラメーターが十分な性能であ

る事が確認された。

-EADS Astrium 社 2005.5.93 プレリリース 記事-

3. JAXA の宇宙飛行士 野口聡一氏搭載の STS-114 スペースシャトルの打上げ予定期間を 7 月 13 日-31 日に行う事を発表した。

NASA はスペースシャトル「ディスカバリー号」ミッションの新しい打上げ予定期間を 7 月 13 日から 7 月 31 日まで (米国時間) と発表しました。本日の発表はここ 2 週間のスペースシャトルプログラムの再評価によるもので、デブリの危険性に対する技術的検証と外部燃料タンクへの追加作業が必要であることを NASA は確認した。



スペースシャトル NASA提供

「今回の延期は STS-114 ミッションへの全体的な取組みという姿勢で一貫しています。我々はフライトを再開しようとしているのであり、慌てて飛行しようということではありません。」マイケル・グリフィン NASA 長官は NASA 本部で行われた朝の会見でこのように述べました。「我々のこの取組みは、スペースシャトルとそのクルーを打ち上げる前に、安全だと確信するためのものです。確実でありたいのです。」NASA 宇宙運用局のウィリアム・レディ局長は「最初から、我々はマイルストーンにより計画

を推進しています。今回、デブリと氷についての解析や推進系の再点検、外部燃料タンクの改善の必要性というマイルストーンにより、目標を7月に再設定したのです。」飛行再開ミッションではアイリーン・コリンズ船長と6人のクルーがISSに行きます。今回のミッションは熱防護システムの新しい検証や修理技術の評価を目的として2回予定しているテストフライトの第一回目であり、またISSに物資と機器装置などを運ぶ。

-NASA 2005.4.29 プレリリース 記事-